

教養教育センターカリキュラムポリシー

本学の学位授与の方針に掲げる『食・緑・人』の基礎的な知識・技能、汎用的能力、人間力、社会性、国際性の修得に向けて、A 科目群（自然と科学）・B 科目群（社会構造と生活）・C 科目群（歴史と文化）・D 科目群（思索と創造）・E 科目群（健康とスポーツ）・F 科目群（語学と汎用的な能力の育成に関する科目）を体系的かつ系統的に編成し、学生が主体的に学ぶ態度・意欲を育成します。

1. 教育課程の編成方針

教養教育は六つの科目群、すなわち、A 科目群（自然と科学）・B 科目群（社会構造と生活）・C 科目群（歴史と文化）・D 科目群（思索と創造）・E 科目群（健康とスポーツ）・F 科目群（語学と汎用的な能力の育成に関する科目）にて構成します。

(1) A 科目群（自然と科学）

自然科学の知識を学ぶことによって、理系的思考方法を身に付けるとともに、自然と共生し、自然環境と調和した生き方の重要性を学び、生命の大切さと自然を大切にすることを涵養する。

(2) B 科目群（社会構造と生活）

個人と社会の関係、社会構造を理解し、そこに現れる多くの問題を解決していく知識や社会人として暮らしていくための知識を学び、社会貢献の必要性も学ぶ。

(3) C 科目群（歴史と文化）

人類の歴史とそこで醸成された文化を学ぶことによって、異文化への理解を深め、ダイバーシティへの適応力を学ぶ。

(4) D 科目群（思索と創造）

人類は思索と創造によって、我々の思考や心の在り方を理解し、人として生きる意味と人間性を培う意義について考察してきた。それらを学ぶことによって、地域社会及び国際社会に貢献するための資質や能力を育成する。

(5) E 科目群（健康とスポーツ）

健全な魂を醸成するために、健全な身体を維持し、心身ともに健やかな状態で生活していくために、スポーツを通して、健康を持続していく知識と能力を学ぶ。

(6) F 科目群（語学と汎用的な能力の育成）

語学を通して、異文化を理解し、グローバルな世界観を身に付け、コミュニケーション・スキルを醸成して、汎用的能力を育成する。

2. 学習方法・内容

2-1. 学習方法

- (1) 教養課程では、教養科目及びキャリア形成科目を体系的かつ系統的に学習すると共に、実習・実験及びボランティア活動など体験的な科目との往還を通して、実践的かつ能動的に学習する。（知識・技能及び汎用的技術の深化）
- (2) 主体的かつ能動的な学びの態度を育成するために、教養科目及びキャリア形成科目では、学生の能動的な学習（アクティブラーニング）の時間を設定する。（汎用的技術及び態度・志向の深化）

2-2. 学習内容

(1) A 科目群（自然と科学）

自然科学的な思考を理解するとともに、自然と共生する人類の歩み方を考え、生命を尊重し、自然を畏敬する心を涵養する。

(2) B 科目群（社会構造と生活）

社会の仕組みを理解し、社会との繋がりを考えるとともに、さまざまな社会問題を解決するための知識を習得し、社会貢献の精神を醸成する。

(3) C 科目群（歴史と文化）

人類の歩んできた道のりと培ってきた多くの諸文化に触れて、理解を深めるとともに、物事に対して様々な角度から、いろいろな見方や考え方ができる能力を醸成する。他者と協調・協働して行動できる「チームワーク」、「リーダーシップ」、さらには「生涯学習力」の修得を目的とした科目を配置します。

(4) D 科目群（思索と創造）

心と思考の仕組みを理解し、豊かな品性と不屈の精神を養い、道理を実践する力を伸ばす。地域社会及び国際社会に貢献するための資質・能力の育成を目指し、「自己管理能力」、「倫理観」、「市民としての社会的責任」の修得を目的とした科目を配置します。

(5) E 科目群 (健康とスポーツ)

豊かな人間性と健康な生活を送るために、感性を育む健全で逞しい心身を培うスポーツに慣れ親しむとともに、健康維持・増進の知識を習得する。

(6) F 科目群 (語学と汎用的な能力の育成)

汎用的能力の育成を目指し、「コミュニケーション・スキル」、「数量的スキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」、及び「語学力」、「異文化理解力」の修得を目的とした科目を配置します。

学修成果の点検・評価

3-1. 本学の学修成果

学生の「各科目の成績」及び「学生生活の活動歴」にて獲得した資質・能力とします。

3-2. 学修成果の点検・評価

学生が科目履修や学生生活にて獲得した資質・能力の水準を、カリキュラムポリシーに基づき点検・評価します。

(1) 短期的な学修成果

学期終了時に自己評価 (リフレクション、及びポートフォリオ評価または履修カルテ) と担当教員による評価を実施し、定期的に点検・評価します。

(2) 各科目の学修成果

学修のねらい及び到達目標に基づいた評価方法とその基準をシラバスに明示し、到達目標の達成度にて評価します。到達目標は、カリキュラムポリシーに基づいて設定します。